

色とりどり 手形で描く

新居浜・母子寡婦連合会

仏画家と絵画を共同制作



新居浜市母子寡婦福祉連合会のメンバーと一緒に絵を楽しむルールさん(右から2人目)

新居浜市母子寡婦福祉連合会(三木ユリエ会長、157人)は8日、発足60周年を記念し同市一宮町2丁目の新居浜商工会館で「チャリティー現代国際巨匠絵画展」を開く。7日は交流会があり、出展者の一人でフランス在住の画家ジャネット・ルールさんと会員約15人が、会場で絵画を共同制作した。

絵は「60年のみんなのてがた」と題し、水彩の大きな木に花が咲

くように、会員が色とりどりの手形を押し、ルールさんが母子の絵を描いて仕上げた。ルールさんは「日本各地でさまざまな団体と楽しい時間を共有している。新居浜のメンバーにも、きれいな思い出となってくれればうれしい」と話した。

三木会長は「市内には母子家庭や夫を亡くした女性が大勢いる。和気あいあいとした会

の活動を周知し、一人で孤立しないで伝えたい」と語った。

絵画展は午前10時〜午後6時開場。現代画家の油彩や日本画、ピカソやシャガールの版画など内外約60人の約150点を展示・販売。売り上げの1割は同会の運営資金に、1%は東日本大震災への義援金にするという。

(秀野太俊)